協同を取り入れたリスニング授業の実践

A Listening Classroom Practice Applying Cooperative Activities

片　桐　早　苗

Sanae Katagiri

教育推進機構教養教育開発実践センター
Center for Liberal Arts Development and Practices

Abstract

This classroom practice was organized based on the concept of Cooperative Learning aimed to foster students' autonomy. 37 students from 3 separate intermediate Listening classes at Hirosaki University participated in this active research project. During the 15-week course, participants worked in groups of 4 to complete the weekly listening activities. The essential components of Cooperative Learning, 1) positive interdependence, 2) personal responsibility, 3) face-to-face promotive interaction, 4) interpersonal and small-group skills, and 5) group processing were used to manage these classroom learning activities. Through this practice, students displayed active participation in the classroom. In addition, students completed a questionnaire about Cooperative Learning at the end of the course. Results from this survey suggest that students spent time outside the classroom preparing for class activities, enjoyed learning with others, and found the value of learning with and through their peers.

Keywords: Cooperative Learning, Listening, Group Activity, Classroom Management

協同学習の意義及び重要性

「学習者の学び」を中心に据えた授業実践への興味関心，さらにはその実施のための教師の実践共有の必要性はさらに高まっている。平成24年の中央教育審議会大学分科会の報告書『予測困難な時代において，生涯学び続け，主体的に考える力を育成する大学へ』において，変化し続ける社会の中で，主体的に学びを継続し，考え続ける力を備え，どのような状況にも対応できる多様な人材を育てることが，学士課程教育の役割であるとされた。さらには，令和3年1月の答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して』においても，すべての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現に向けて日本の教育全体が動いている。本学教養教育英語科目でも，「自律英語学習者の育成」がカリキュラムの特徴として掲げられている。生涯にわたって楽しめる英語を，学生が自律的に継続して学習するための支援をすることが『学習ガイドブック』に明記されている。つまり「教え」中心から，「学び」を中心に，学習者の主体性，自律性を育む授業が求められている。その目標のもと，教養教育英語科目の授業において，アクティブ・ラーニングとして，学習者の自律を促す授業実践が行われてきた。

そこで，本実践報告は，教養教育英語科目のListening中級（週1回，90分授業）において，行われた協同教育の理念を用いた授業運営方法と，具体的な活動の内容，授業後に行ったアンケート調査より，学生の協同に対する意識，授業外学習への影響について報告するものである。

本実践における協同学習とは

協同学習とは実践的な学習指導理論で，特定の技法をさすものではなく，学習者が主体的で自律的に学びに向かい，確かな知識を身につけ，仲間とともに課題解決に向かうことできる対人技能，さらには，他者を尊重する民主的な態度を身に着けること指導の根底に置く教育，及び学習理念である。教師はその考え方をしっかりと理解し，主体的に，責任をもって意思決定し授業を作り上げることが協同学習である（杉江, 2019, p8.）。本実践においてもこの理念に基づき，授業を構築した。

授業実践

教員が学生の学びを支援する授業活動を組み立てることはもとより，学生にも「協同学習」の理念を理解してもらうオリエンテーションを行うことから始まる。令和3年度前期授業は教室における対面授業を基本としていた。しかしながら，新型コロナ感染症対策として5～6週目をメディア授業とし，Microsoft Teamsを使用した。

対象学生

本実践の対象者は，教養教育英語科目のListening中級（週1回，90分）を受講する学生，3クラス43名であり，学部は農学生命科学部，人文社会科学部，医学部保健学科，教育学部，理工学部である。そのうち，学期末に行ったMicrosoft Formsを用いたアンケートには37名から回答を得た。

使用教材

使用した教科書はBroadcast: ABC World News Tonight 3である。この教科書は，アメリカのABC放送からのテレビニュースの録画，及び，それを文字化したテキストを教材としている。それぞれのユニットに1つのニュースが取り上げらており，語彙問題，ディクテーション問題，内容理解を確認する問題，短文作文，空欄補充による要約文作成問題，自分の意見を発信する問題が含まれる。1授業時間で1ユニット扱うこととし，学生の興味に基づき授業で取り上げるユニットをMicrosoft Formsを用いてアンケートを行い，多数決で決定した。

初回授業

まず，初回授業の大事な目的は，1）協同学習についての基本的な理解を得ること，2）共に学ぶ仲間との信頼関係を築く一歩を踏み出すことである。そのため，本授業の目標を明確にし，共有したうえで，協同学習の基本的な考え方について，Johnson, at al., 1994, p26.の定義を紹介する。

1．互恵的な協力関係（肯定的相互依存）がある
2．個人の責任が明確である
3．対面しての活発なやり取りがある
4．小集団内でのコミュニケーション技術の奨励および訓練がある
5．活動の振り返り（改善手続き）がある

このことを図1のように，協同学習を予習，授業時間，復習の循環の中で実践しながら，振り返り，改善しつつ，自分の学びを主体的にとらえることを目指す授業であることの理解を得ることが大切である。

また，グループとして機能するためには，メンバーの信頼関係を築くことも重要であり，初回授業時には，

図1
協同学習の定義と学習の循環

協同の基本となる「傾聴」を意識した自己紹介を，ミラーリング等を用いて行い，学生間の関係づくりにも時間を割く必要がある。

授業外学習，及び，授業の時間配分

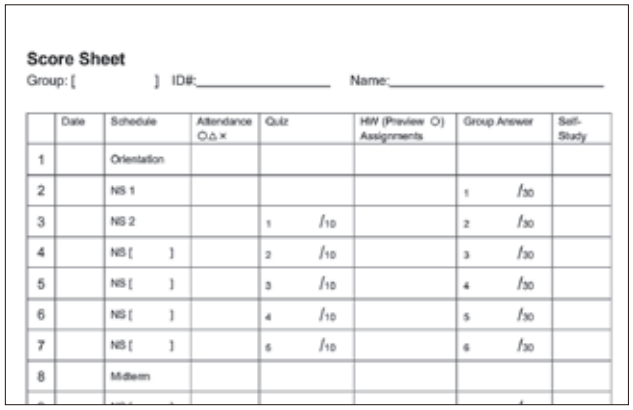
- 予習（想定時間45分～60分）：予習において，語彙問題，ニュースの導入部分で総合司会者がニュースの概要を伝える部分の理解，また大まかに内容を理解する程度ビデオクリップを視聴してくることを宿題とした。
- 学習記録Score Recordの記入（10分）：その日のリーダーを決め，出席，予習の確認をグループで行う。この際，お互いに顔を見てあいさつをすることを奨励した。
- 語彙確認クイズ（10分）：前ユニットのニュースから語彙確認クイズを出題した。解答は，個人もしくはグループで行った。
- 語彙問題の確認（15分）：本文での意味を参照しながら語彙問題を全体で確認する。この解答はGroup Answer Sheetに書き入れ，他のグループと交換して採点する。
- ニュースの導入部分の内容確認（15分）：各自の予習での理解を共有しながら，導入部分の内容，これからのニュースの内容の予想，背景知識の確認を行う。
- ディクテーション問題（20分）：実際に放送されたニュースをCDに再収録された音声を聞きながら，聞き取りを行う。複数回聞く間には，グループで自分の理解を共有する時間を設け，音，文脈，文法など多くの側面から空欄を補充するよう促す。この解答は，Group Answer Sheetに書き入れ，他のグループと交換して採点する。
- 内容理解を確認する問題（15分）：個人思考の時間後，解答の根拠等をグループで話し合い解答をGroup Answer Sheetに書き入れ，他のグループと交換して採点する。
- 振り返り（5分）：予習を含め，本授業時間の学習活動を振り返り，改善すべき点を具体的に記述し，それに対する改善策を考える時間を設けた。振り返りをグループ内で共有し，仲間が共に行う活動に関してどのように考えているかを知る機会を設けた。
- 復習（想定45分～60分）：要約文作成問題を完成させ，再度ビデオクリップを視聴し，ニュースの理解を確認することとした。
- Self-Study：自分の意見を発信する問題を利用し，ニュースに対する自分の考えをまとめる。学期中5回の提出を求め，それ以上の提出をボーナス点（5回上限）として奨励した。またSelf-Access Learning Centerであるイングリッシュ・ラウンジの積極的利用を推奨した。

Score Sheet/Reflection

本実践では，学生が自ら自分の学習を管理するという観点から，自分の学習記録をとるための用紙を準備している。出席，クイズ，宿題（予習），Participation（Group Answer Sheet），Self-Studyを一覧できるものである。

本用紙の裏は，振り返りを行うReflectionとなっている。協同学習の基本や，その時の活動にあったコミュニケーション技術に対する気づきを促す設問が書き込まれている。実践者である教員は毎時目を通し，できる限り自分の学習スタイルに対する気づき，異なる学習方略に対する気づきを高めるフィードバックを行った。

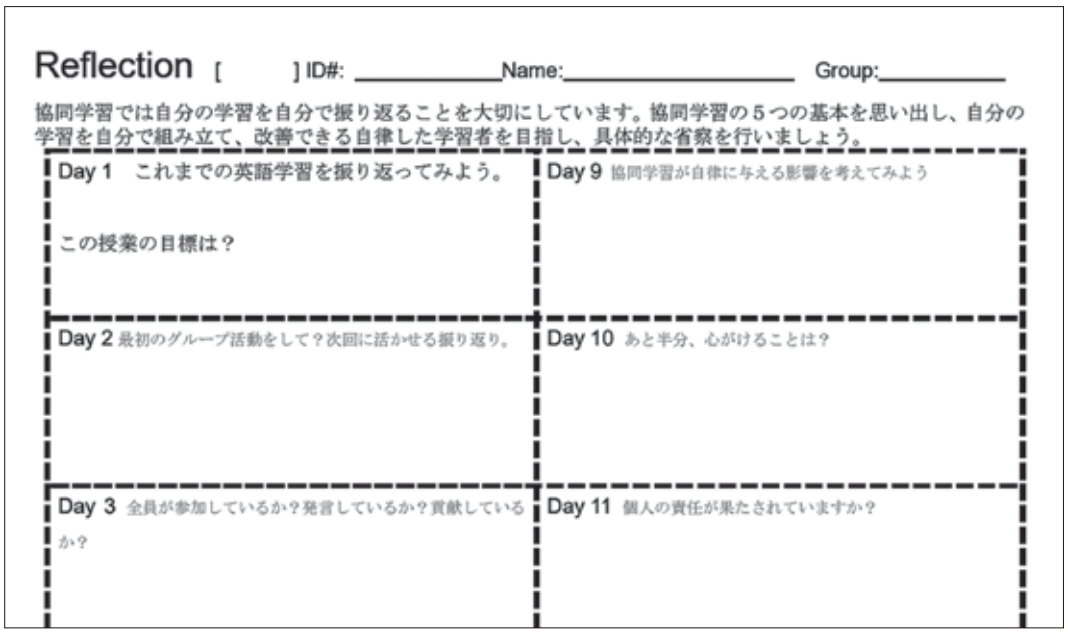
図2
学習記録 “Score Sheet”



Score Sheet
Group: [　　] ID#:_____ Name:_____

	Date	Schedule	Attendance ○△×	Quiz	HW (Preview ○) Assignments	Group Answer	Self-Study
1		Orientation					
2		NS 1				1 /30	
3		NS 2		1 /10		2 /30	
4		NS [　]		2 /10		3 /30	
5		NS [　]		3 /10		4 /30	
6		NS [　]		4 /10		5 /30	
7		NS [　]		5 /10		6 /30	
8		Midterm					

図 3
振り返り “Reflection”


Reflection [ ] ID#: _____ Name: _____ Group: _____

協同学習では自分の学習を自分で振り返ることを大切にしています。協同学習の５つの基本を思い出し、自分の学習を自分で組み立て、改善できる自律した学習者を目指し、具体的な省察を行いましょう。

Day 1 これまでの英語学習を振り返ってみよう。 この授業の目標は？	Day 9 協同学習が自律に与える影響を考えてみよう
Day 2 最初のグループ活動をして？次回に活かせる振り返り。	Day 10 あと半分、心がけることは？
Day 3 全員が参加しているか？発言しているか？貢献しているか？	Day 11 個人の責任が果たされていますか？

Group Answer Sheet

授業におけるParticipationの評価として，教科書中の設問に対する解答は，各自の個人思考の結果，その知識を共有し，対話を経たグループの成果とし記入するためにGroup Answer Sheetを用意した。欠席の学生以外には同じ点数を得ることとし，すべてのメンバーの貢献を推奨した。

考　察

授業後にMicrosoft Formsを用いて行ったアンケート調査へ37名から回答があり，その回答から学生の協同への理解，学習への影響を考察する。

協同学習の理解・イメージ

授業実践を通して，学習者のそれぞれに協同学習がどのようなものとして理解され，自分の概念として捉えなおしができたかと問うため，「協同学習を短い日本語で表してください」としたところ，「協力」11名，「学び合い」9名，「高め合う」8名，これからの3表現が最も多くつかわれていた。「高め合う」という表現は，その物自体に他者の存在がしっかりと感じられる。自分のみ知識・技能を身につけるだけではなく，集団として複数の個が互いに影響しながら成長を目指していたことがうかがえる。また，「学び合い」という言葉も，「協学」「共学」「相互学習」など多様な言葉で表現されており，互いの違いから学び合うことを目的に集団が形成されていたことがわかる。これらの表現から，初回授業時に紹介した協同学習の定義の中の，互恵的相互依存の関係がグループの中に形成されていることが推察できる。

授業外学習時間

『弘前大学教養教育科目履修マニュアル』によると，「講義と演習科目は，1単位習得に必要な45時間のうち，15時間を授業中に学修し，30時間を授業外で学修することが前提」とされており，授業外学習が十分に確保されるよう，予習・復習の内容を示すよう求められている。そのため，具体的な予習の指示や，復習課題の提示，オンライン教材の活用，Self-Access Learning Centerの積極的利用の呼び掛けな

どが行われている。

本実践でも，実践者自作のStudy Sheetを用い，学習者の学習活動の可視化に努め，予習・復習が授業参加にとって非常に重要であることを意識づけた。以下表1は本授業のための予習時間，表2は復習時間についての結果である。

表1
平均予習時間

90分の授業のために平均してどれくらいの予習をしましたか？	
1時間以上30分未満	5
30分以上1時間未満	15
30分未満	13
その他	4

表2
平均復習時間

90分の授業のために平均してどれくらいの復習をしましたか？	
1時間以上30分未満	15
30分以上1時間未満	16
30分未満	4
その他	2

この結果から予習のために，1時間以上1時間30分未満の学習時間をとっている学生が15名（41％）と最も多く，30分から1時間未満が次いで13名（35％）であった。その他の選択をした学生のうち3名は2時間，2名が2時間30分と回答しており，合わせて14％が2時間以上の学習をしていたことがわかる。また，授業後の復習には予習よりは学習時間が少ないことが分かるが，15名が1時間以上1時間30分未満，16名（43％）が30以上1時間未満の学習をしている。2名のその他を選択した学生は，それぞれ3時間と2時間であった。90分の授業に対して60分以上の予習・復習時間を持っているといえる。また，予習時間と復習時間を比較すると，予習時間のほうがより長い傾向にあるといえる。この傾向は，Reflectionとして記述している「振り返り」でも見られ，より丁寧な予習をすることで次回のグループ学習に積極的に参加，貢献したいことから，グループ活動により影響のある予習により長い時間を当てる傾向にあると考えられる。

表3
予習・復習として行った学習活動

どのような授業外学習（予習・復習）をしていましたか？（複数選択可）	
予習・復習の仕方がわからない	0
予習として，本文を読む	31
予習として，語彙を調べる	32
予習として，動画・音声教材を見る	30
予習として，教科書のExerciseに解答する	20
復習として，本文を読む	26
復習として，語彙を確認する	28
復習として，動画・音声教材を見る	22
復習として，内容の要約をする	18
復習として，学習した内容に関して，自分で調べ，考え・意見をまとめる。	14

授業外学習として行っていた活動を複数選択可で回答させたところ，表3の結果となった。選択した項目数の平均が5.9項目と，多様な活動を授業外で行っていることがわかる。実践者がStudy Sheetを作成し，具体的に予習として行うべき，また行った方が授業内のListening活動，及びグループでの活動が効果的になると考える活動例を示したことも，効果的に働いたと考える。

協同学習が学習者に与えた影響

本実践が授業外学習に与えた影響について，アンケート結果を表4にまとめた。

表 4
本実践が授業外学習に与えた影響

協同学習に基づくグループワークが，授業外学習に与えた影響について	
より丁寧に予習するようになった	28
映像や音声など，より回数を多く見るようになった	24
語彙を調べるために辞書を使う機会が増えた	20
教科書の内容を訳してみるようになった	19
授業外学習の時間が長くなった	17
予習として指定されていない問題も解答してみるようになった	10
分からない所を明確にした	1

調査した質問項目では，28名（76％）が「より丁寧に予習するようになった」と答え，グループでの学習のために聞き取りの素材である「映像や音声を，より回数を多く見るようになった」（24名・65％），「語彙を調べるために辞書を使う機会が増えた」（20名・55％）と回答している。完璧でなくても，できる限り聞き取ろう，また聞き取れない部分は語彙の理解から周辺の理解を深めようという姿勢がうかがえる。

さらには，予習として指定されていない部分を自分なりの根拠をもって解答してみることや，自分なりの訳をあらかじめ用意している学習者も見られた。Group Answer Sheetを用いる目的は，各自が予習してきたことを共有し，自分では気づかなかった音声情報，文脈理解，背景知識などを持ち寄ることによって，より良い聞き取り活動をすることである。そこに書き込まれた解答は個人のものではなく，共有・交渉の後のグループ全員の成果である。そのために，自分が得意な活動でグループに貢献しようとしていることが観察でき，またそのような行動が奨励された。

授業回数を重ねるごとに，グループの中での人間関係，信頼関係が形成されていることも観察でき，授業外学習も，クラスメイトやグループメンバーと行っている様子が見えた。授業外学習を一人で行ったという学生が29名（78％）と数としては最も多いものの，学生同士の会話や今回のアンケートから8名から授業外でもTeamsでの会議や，携帯電話を用いたビデオ通話，電話での会話等で時間を共有していることが分かった。

このような授業外のインフォーマルな協同グループは，もしかしたらこれまでも形成されていたのかもしれない。実践者である教員の見えない場面での学習のため，今まで気づくことができなかった可能性は否定できない。今回の報告した授業実践の集団は1クラス，12～18名と集団が通常の30名よりも小さいものであった。そのためもあり，教員と個別に接する場面が多く，また学生同士お互いを知り合い，クラス全体として信頼感，一体感が形成されやすい傾向にあったのではないかと推察される。また，学生にとっても昨年の新型コロナ感染症に対する措置として行われた一斉休校，部活動等の活動停止を経験し，他者と協同して何かを行うことを制限された経験があり，それも要因となり，この実践を肯定的に受け止め，より充実したグループ活動，授業外学習活動を行うことにつながったのではないかとも考る。

おわりに

本実践は，教養教育英語科目のListening中級において，協同学習の理論に基づくグループ活動を中心とした実践例を紹介した。本授業の目標は，まずもってListening能力を中核に英語能力を総合的に

伸ばすことであるが，同時に本学教養教育英語科目が目指している自律英語学習者を育成することを志向した。本実践の中で，具体的な学習活動の例を示し，それを自分で選択して行う枠組みを準備し，他者との対話の中でその存在を認め相互作用することにより，自己の成長を図り，そのことが学習者の英語学習へのかかわりがより主体的になったことが授業外での学習の様子から分かった。実践期間が15週間と限られたものであり，英語能力の伸長を考察に加えなかったことなど不十分な点はあるが，自律した学習者として，自分の学習を主体的に考え，授業と授業外学習を自分の文脈で組み立て，他者の存在に価値を見出す可能性をもった実践であるということができる。なによりも授業の感想として英語の授業が「楽しい」という，英語学習に対する肯定的な感想が，これからの学習継続の原動力となることと期待したい。

引用文献

Johnson D. W., Johnson R. T. & Holubec, E. J. (1994) *The New Circles of Learning: Cooperation in the Classroom and School*. Association for Supervision and Curriculum Development.

杉江修治他（2019）『日本の協同学習』日本協同教育学会（編）ナカニシヤ

立田夏子・横内裕一郎（編）（2020）『弘前大学教養教育英語科目学習ガイドブック』弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター

文部科学省（2012）『予測困難な時代において生涯学び続け，主体的に考える力を育成する大学へ』中央教育審議会大学分科会

文部科学省（2021）『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～すべての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協同的な学びの実現～』中央教育審議会

弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター（2021）『令和3年度教養教育科目履修マニュアル』

資料1

アンケート調査項目

1．1科目の単位（2単位）を修得するためには，授業で30時間，授業外学修で60時間，計90時間の学習時間が必要であることを知っていますか。（教養教育科目履修マニュアル p.5）

- はい
- 履修ガイダンス，初回授業でなんとなく聞いた気がする
- いいえ

2．協同学習について

開講時のオリエンテーションで「協同学習」について紹介し，その理論に基づいて授業を進め，自立した学習者になることを目指してきました。そのことについて伺います。

（1）達成すべき基本の5つのポイントについて，覚えているものすべて選択してください。

- 互恵的な学び合いを構築する
- 個人の責任をしっかり果たす
- 対面して活発はコミュニケーションを図る
- コミュニケーション技術を意識し，訓練する
- 自分の学習を振り返り，改善する

（2）協同学習を短い日本語で表してください。

3．本授業の授業外学習について

授業外の学習（予習・復習・自学）について伺います

（1）90分の授業のために平均してどれくらい予習しましたか。

- 0分
- 30分未満
- 30分以上1時間未満
- 1時間以上1時間30分未満
- その他（具体的に記入）

(2) 90分の授業のために平均してどれくらい復習しましたか
- 0分
- 30分未満
- 30分以上1時間未満
- 1時間以上1時間30分未満
- その他（具体的に記入）

(3) どのような授業外学習をしていましたか。（複数選択可）
- 予習・復習の仕方が分からない
- 予習として，本文を読む
- 予習として語彙を調べる
- 予習として，動画・音声教材を見る
- 予習として，教科書のExerciseに解答する
- 復習として，本文を読む
- 復習として語彙を確認する
- 復習として，動画・音声教材を見る
- 復習として，内容の要約をする
- 復習として，学習した内容に関して，自分で調べ，考え・意見をまとめる
- その他（具体的に記入）

(4) 協同学習に基づくグループワークが，授業外学習に与えた影響について（複数選択可）
- 授業外学習の時間が長くなった
- より丁寧に予習するようになった
- 語彙を調べるために辞書を使う機会が増えた
- 教科書の内容を訳してみるようになった
- 予習として指定されていない問題も解答してみるようになった
- 映像や音声など，より回数を多く見るようになった
- その他（具体的に記入）

(5) 授業外学習のためのStudy Sheetについて（複数選択可）
- 授業外でやらなくていけないことが明確になる
- 授業外学習が進めやすい
- 便利である
- あまり必要でない
- 面倒なので不要である
- 使ったことがないのでわからない
- その他（具体的に記入）

(6) 授業外学習の仕方について（複数選択可）
- 自分なりの予習スタイルがある
- 異なる学習スタイルを状況・技能に応じて使い分けている
- 授業外学習の方法が知りたい
- 同じクラスの人がどのように学習しているか情報共有をしたい
- その他（具体的に記入）

(7) 授業外学習の方法につてい（複数選択可）
- 一人で
- 同じ授業をとっている仲間と対面で
- 同じ授業をとっている仲間と非対面で
- 同じグループの仲間と対面で
- 同じグループの仲間と非対面で
- その他（具体的に記入）

(8)「非対面」を選んだ方の通信手段について（複数選択可）
- 電話
- Face Time等のビデオ通話
- Teams会議
- その他（具体的に記入）

(9) その他，授業全般に関して，感想，提案がありましたらどうぞ。